

II 当事者向けアンケート調査

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、ひきこもり状態にある本人及び家族の生活状況や、ひきこもりに関する相談機関等の利用状況等を把握し、より効果的な支援を行うための基礎資料とする。

(2) 調査対象

ひきこもりに関する集団型支援拠点「よりどころ」の利用者（本人及び家族）及び札幌市内のひきこもり支援団体（3団体）による支援を受けている、ひきこもり当事者又はその家族137人。

※家族が回答する場合は、一部、本人の立場で状況や考え等を記入

(3) 調査時期

平成30年9月3日～9月28日

(4) 調査方法

支援団体を通じた直接配布又は郵送配布・郵送回収

(5) 配布数内訳

○ひきこもりに関する集団型支援拠点「よりどころ」

当事者会・・・15人

親の会・・・19人

○札幌市ひきこもり地域支援センター・・・30人

○さっぽろ若者サポートステーション・・・40人

○特定非営利活動法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク

SANGO（サンゴ）の会・・・20人

全国ひきこもりKHJ親の会家族会連合会北海道「はまなす」・・・13人

(6) 回収結果（率）

92人（67.2%）

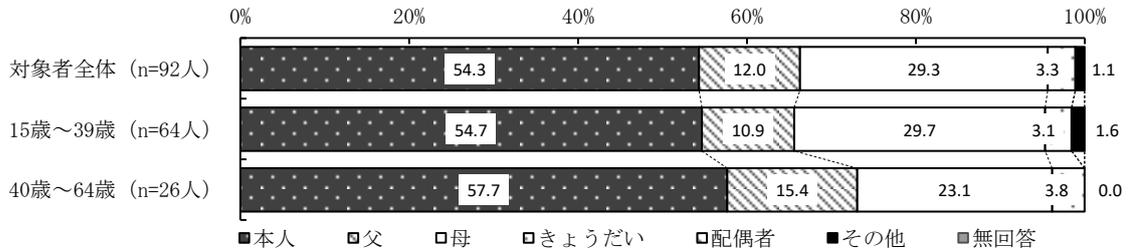
(7) 調査項目

- a. 当事者の基本的属性について（Q1～Q7）
- b. 当事者の学校生活・就労に関すること（Q8～Q10）
- c. ひきこもりの状態に関すること（Q11～Q15）
- d. 相談機関に関すること（Q16）
- e. ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること（Q17～Q18）

2 調査の結果

(1) 当事者の基本的属性について

Q 1 ひきこもり状態の方（過去にひきこもり状態だった方を含む）本人から見て、どなたがお答えになっていますか。

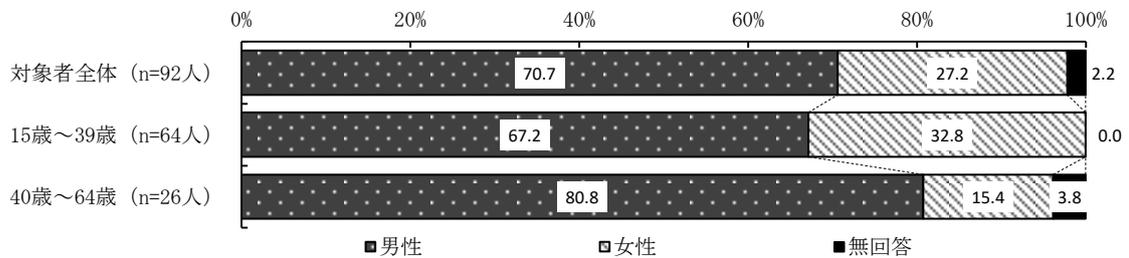


※対象者全体 (n=92人) には、年齢不明を含む。以下同じ。

回答者は、「本人」が54.3%、「父」が12.0%、「母」が29.3%であった。
年齢別による大きな違いはみられなかった。

※以降の設問の「あなた」は、ひきこもり状態の方（過去にひきこもり状態だった方）を表している。

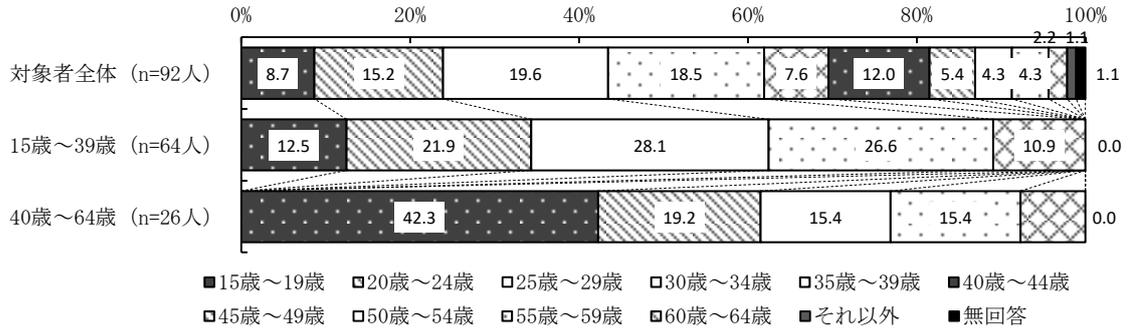
Q 2 あなたの性別をお答えください。



ひきこもり状態の方、又は過去にひきこもり状態だった方（以下、「当事者」という。）の性別は、「男性」が70.7%、「女性」が27.2%であった。

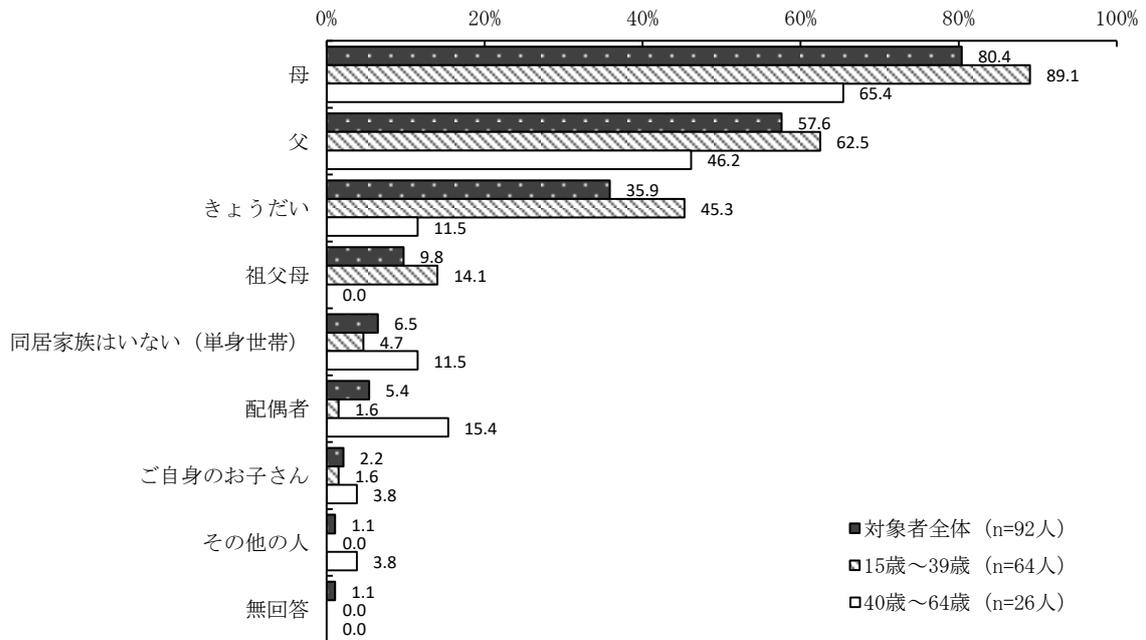
年齢別では、40歳～64歳は「男性」が80.8%であり、多い傾向がみられた。

Q 3 あなたの年齢をお答えください。



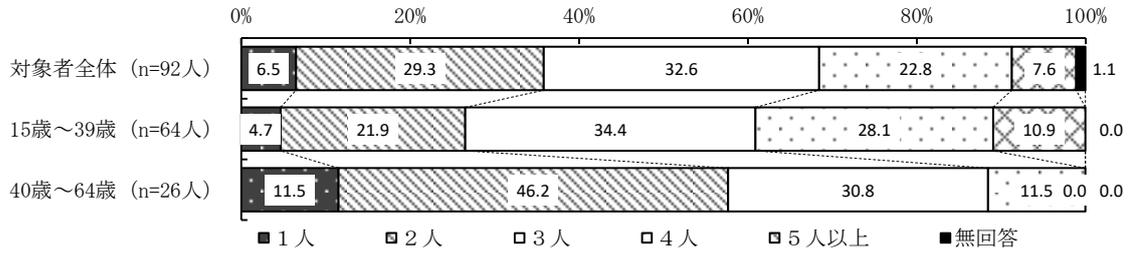
当事者の年齢は、「25歳～29歳」が19.6%で最も多く、ついで「30歳～34歳」が18.5%であった。20歳代が約3割であった。

Q 4 現在あなたと同居しているご家族に○をつけてください。（○はいくつでも）



当事者の同居家族は、「母」が80.4%で最も多く、ついで「父」が57.6%であった。年齢別では、15歳～39歳は「兄弟」、「祖父母」が多く、40歳～64歳は「同居家族はいない (単身世帯)」、「配偶者」が多い傾向がみられた。

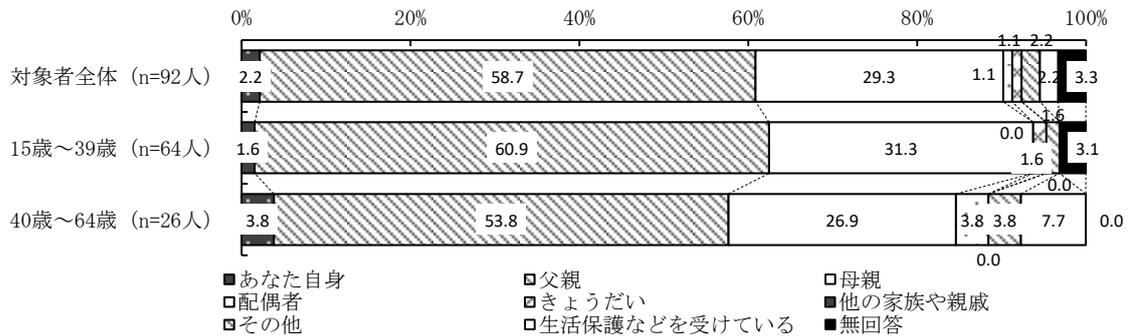
**Q 5 現在同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数を記入してください。
(数字で具体的に)**



当事者の同居家族人数は、「3人」が32.6%で最も多く、ついで「2人」が29.3%であった。

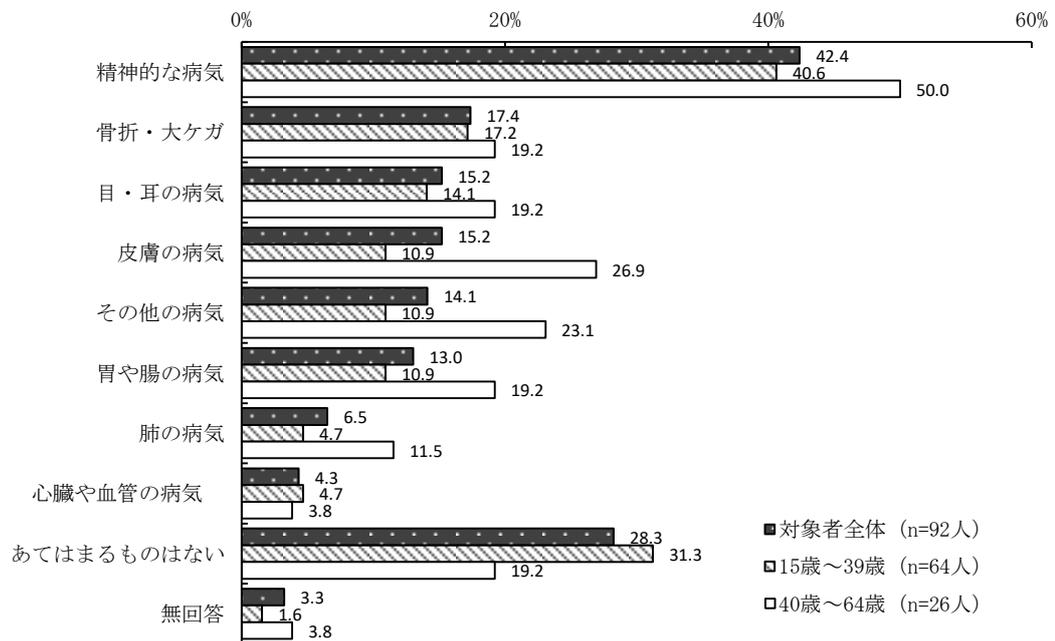
年齢別では、15歳～39歳は「4人」、「5人以上」が多く、40歳～64歳は「1人」、「2人」が多い傾向がみられた。

Q 6 あなたの家の生計を立てているのは主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。



主な生計維持者は、「父親」が58.7%で最も多く、ついで「母親」が29.3%であった。年齢別では、40歳～64歳は「生活保護などを受けている」が多い傾向がみられた。

Q 7 これまでに以下の病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。通院・入院したことがある病気に○をつけてください。（○はいくつでも）

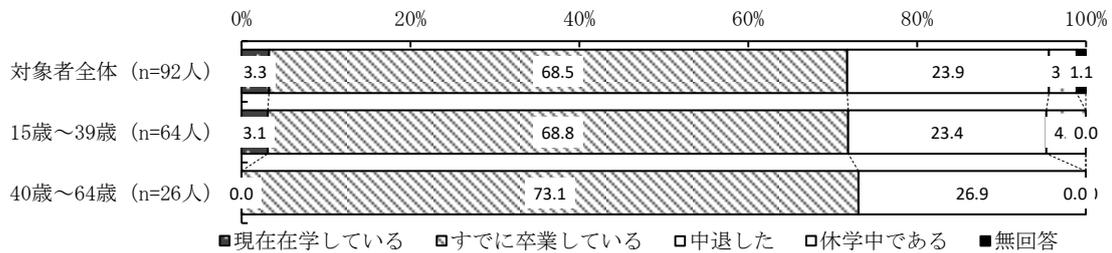


これまで通院・入院経験のある病気やけがについて聞いたところ、「精神的な病気」は42.4%、「あてはまるものはない」は28.3%であった。

年齢別では、40歳～64歳は「心臓や血管の病気」、「あてはまるものはない」を除く全ての項目で多い傾向がみられた。

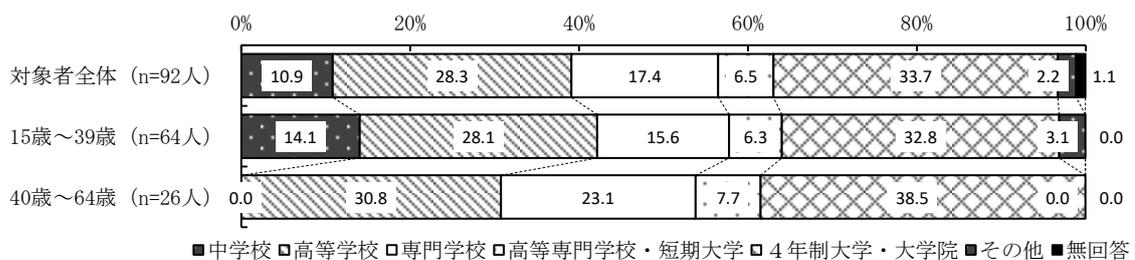
(2) 当事者の学校生活・就労に関すること

Q8 あなたは現在学校に通っていますか。



現在の通学状況については、「現在在学している」が3.3%、「すでに卒業している」が68.5%、「中退した」は23.9%であった。

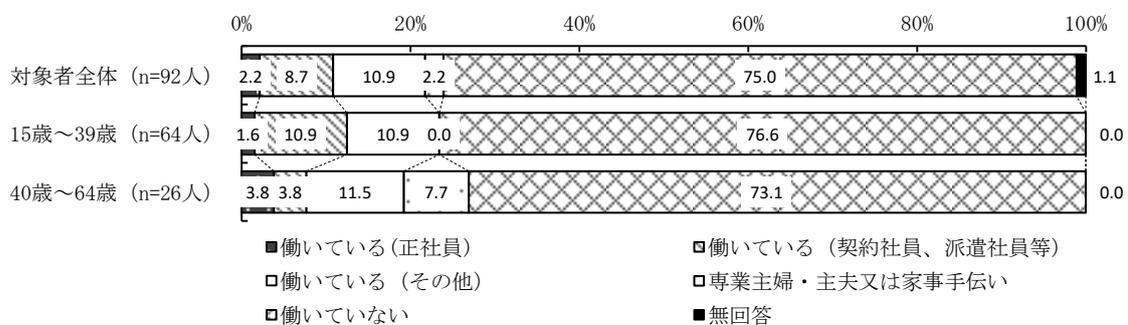
Q9 あなたが最後に卒業（中退を含む）した、または現在在学している学校はどれですか。



最後に卒業、または現在在学している学校は、「中学校」が10.9%、「高等学校」が28.3%、「4年生大学・大学院」は33.7%であった。

年齢別では、15歳～39歳は「中学校」が多く、40歳～64歳は「高等専門学校・短期大学」が多い傾向がみられた。

Q10 あなたは現在働いていますか。

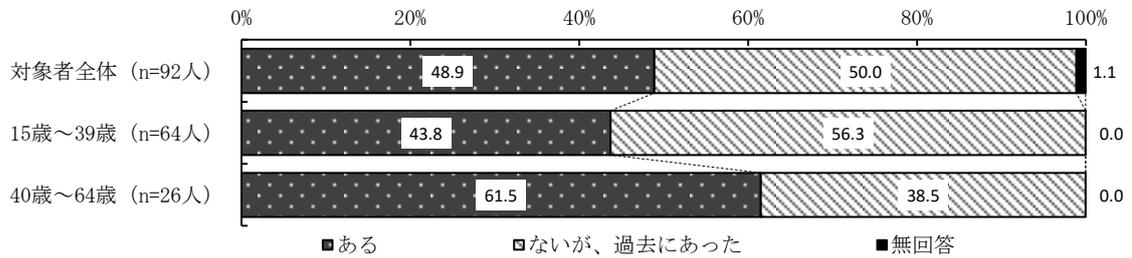


現在の就業状況については、『働いている』（正社員＋契約社員、派遣社員等＋その他）が21.8%、「働いていない」は75.0%であった。

年齢別では、40歳～64歳は「働いている（契約社員、派遣社員等）」が少なく、「専業主婦・主夫又は家事手伝い」が多い傾向がみられた。

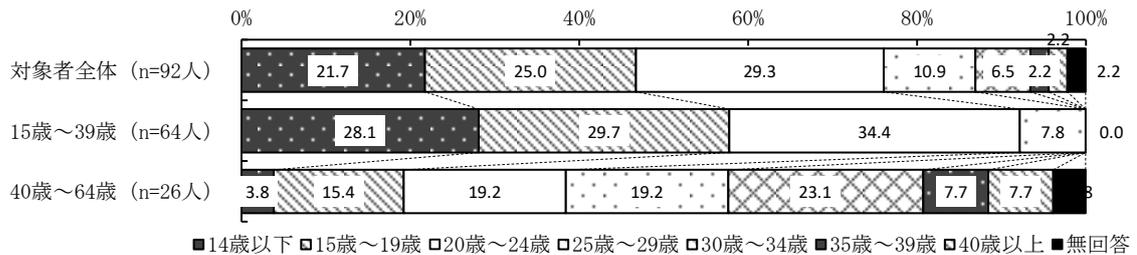
(3) ひきこもりの状態に関すること

Q11 あなたは現在、ひきこもり状態にありますか。



現在のひきこもり状況については、「ある」が48.9%であった。
年齢別では、「ある」が15歳～39歳で43.8%、40歳～64歳で61.5%であった。

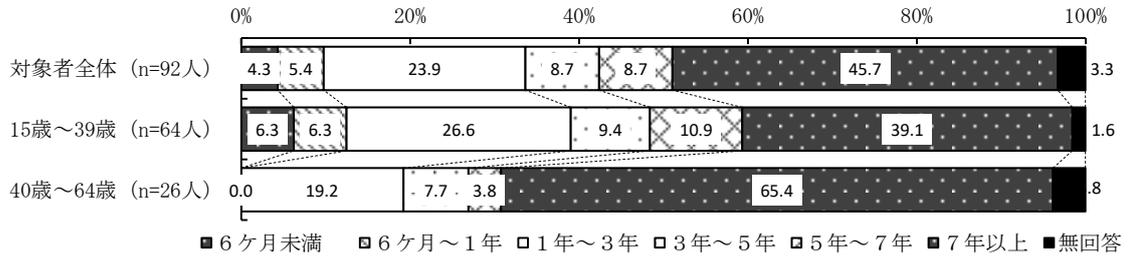
Q12 ひきこもり状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。（過去にひきこもり状態だった方は、その状態になったのはあなたが何歳の頃でしたか。）（数字で具体的に）



ひきこもり状況となった年齢は、「20歳～24歳」が29.3%で最も多く、ついで「15歳～19歳」が25.0%であった。

年齢別では、40歳～64歳は「30歳～34歳」が23.1%で最も多く、ついで「20歳～24歳」及び「25歳～30歳」がともに19.2%であった

Q13 ひきこもり状態はどのくらい続いていますか。(過去にひきこもり状態だった方は、その状態はどのくらい続きましたか。)

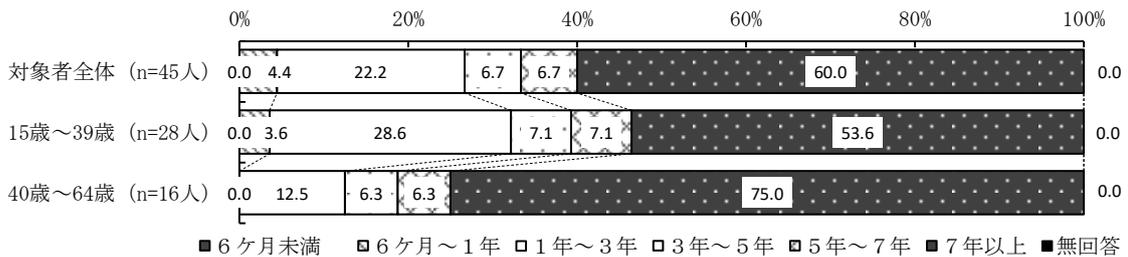


ひきこもり状況の期間は、「7年以上」が45.7%で最も多く、ついで「1年～3年」が23.9%であった。

「7年以上」の回答者の具体的な年数をみると、15歳～39歳で15年以上、40～64歳で20年以上と回答している回答者が一定数いた。

年齢別では、15歳～39歳は1年未満が約1割いる一方で、40歳～64歳は全て1年以上であり、「7年以上」が65.4%であった。

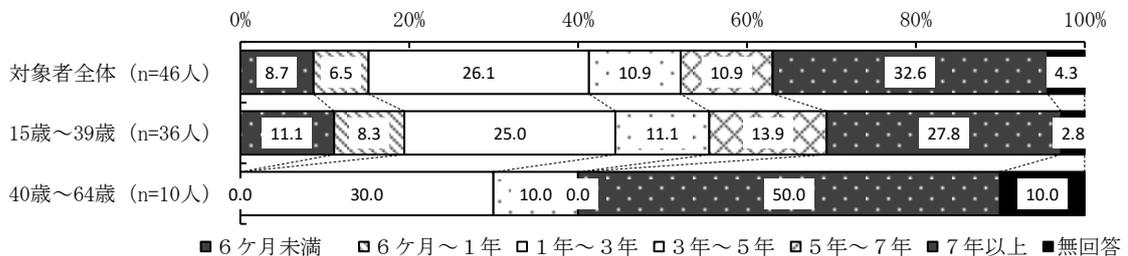
Q13【再集計】 Q11で現在のひきこもり状況について「ある」の回答者



Q11で、現在のひきこもり状況について「ある」の回答者でみると、「7年以上」が60.0%で最も多かった。また、「6ヶ月未満」の回答は無かった。

年齢別では、40歳～64歳は「7年以上」が75.0%であった。

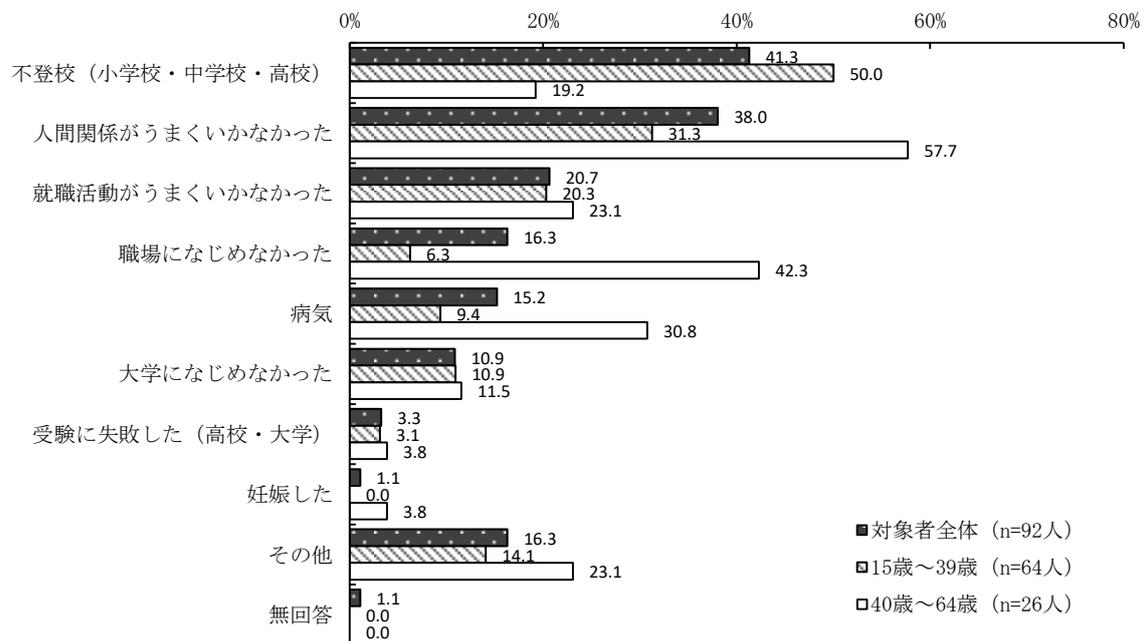
Q13【再集計】 Q11で現在のひきこもり状況について「ないが、過去にあった」の回答者



Q11で、現在のひきこもり状況について「ないが、過去にあった」の回答者でみると、「7年以上」が32.6%で最も多かった。

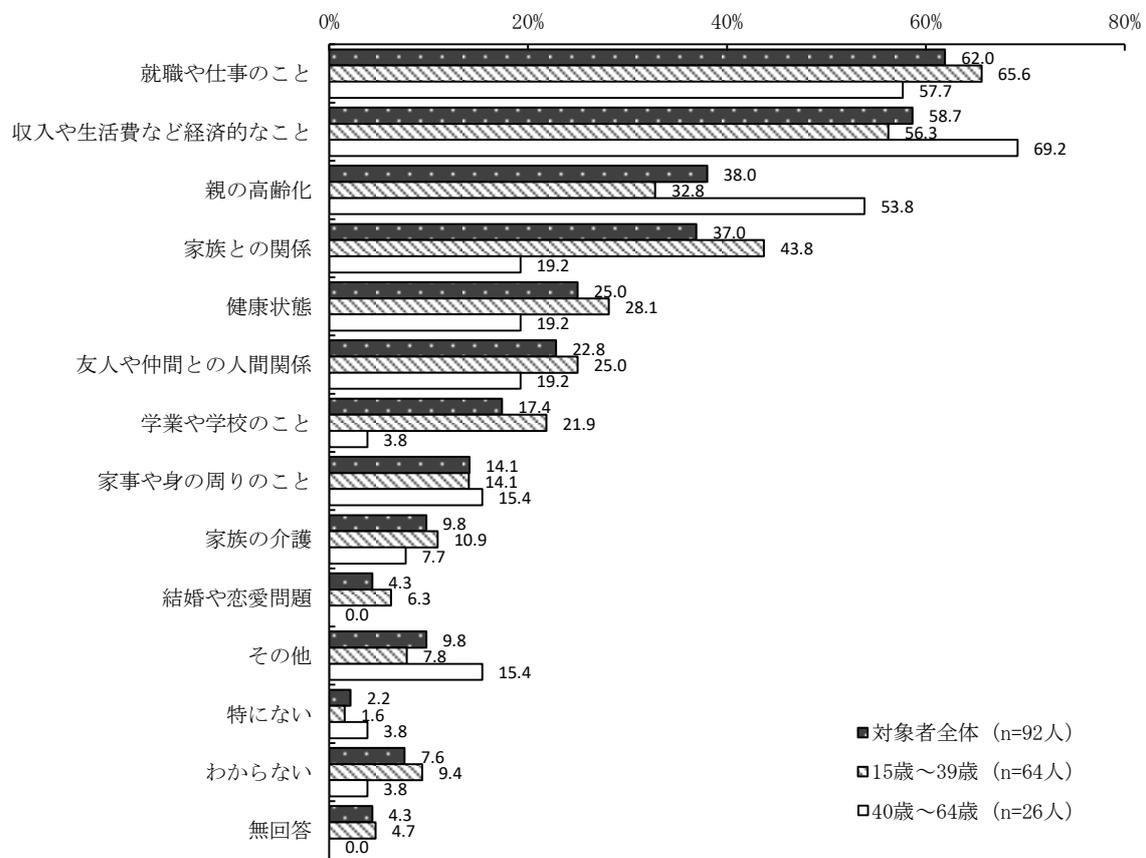
年齢別では、15歳～39歳は1年未満が約2割であった。

Q14 ひきこもり状態になったきっかけは何ですか。(過去にひきこもり状態だった方は、その状態になったきっかけは何でしたか。)(〇はいくつでも)



ひきこもり状況になったきっかけについては、「不登校 (小学校・中学校・高校)」が41.3%で最も多く、ついで「人間関係がうまくいかなかった」が38.0%であった。
 年齢別では、15歳～39歳は「不登校 (小学校・中学校・高校)」が50.0%で最も多く、40歳～64歳は「人間関係がうまくいかなかった」が57.7%で最も多かった。

Q15 現在あなたが抱えている不安や危機感として、どのようなものがありますか。（過去にひきこもり状態だった方は、ひきこもっているときに抱えていた不安や危機感としてどのようなものがありましたか。）（〇はいくつでも）

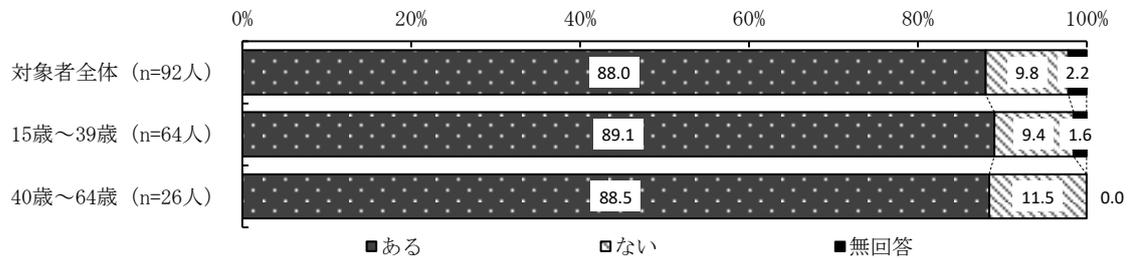


ひきこもり状態時に抱えている不安や危機感については、「就職や仕事のこと」が62.0%で最も多く、ついで「収入や生活費など経済的なこと」が58.7%であった。「特にない」は2.2%であった。

年齢別では、15歳～39歳は「就職や仕事のこと」が65.6%で最も多く、40歳～64歳は「収入や生活費など経済的なこと」が69.2%で最も多かった。

(4) 相談機関に関すること

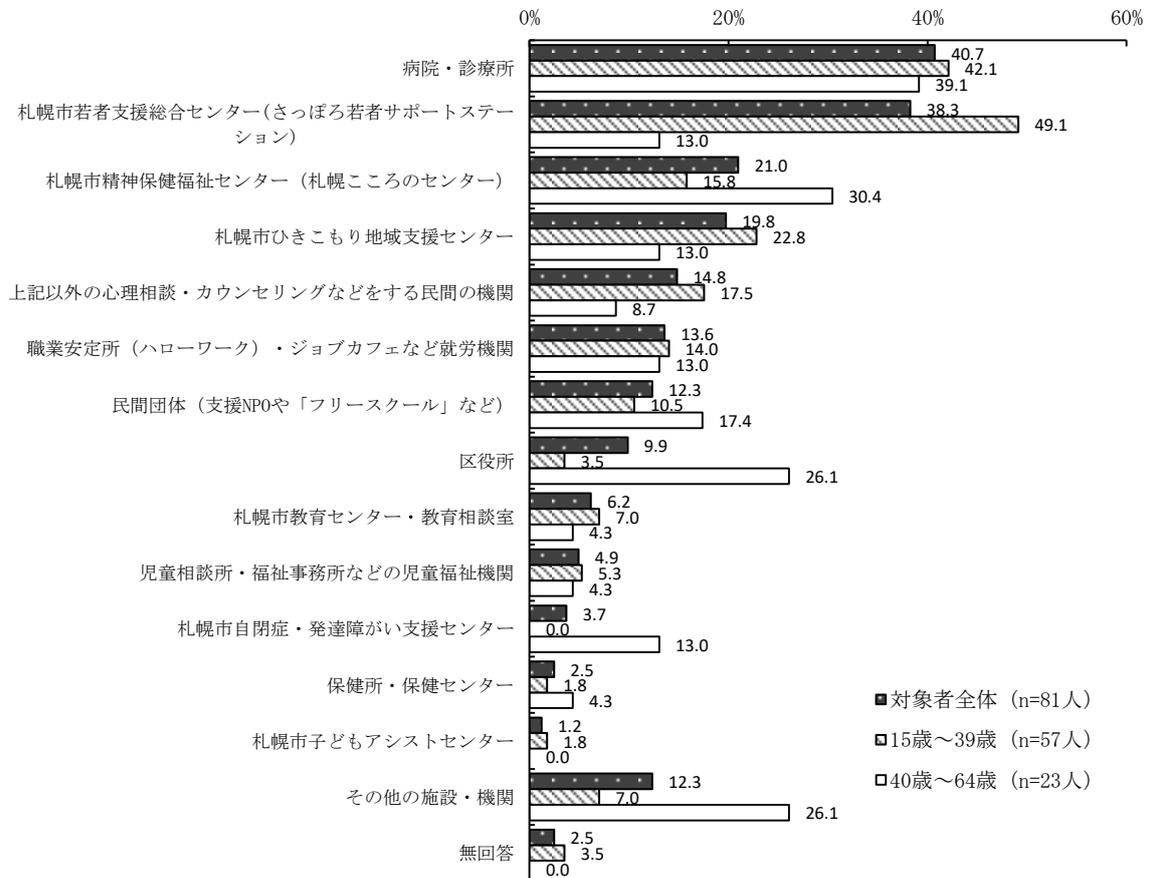
Q16 現在の状況について、関係機関に相談したことはありますか。(過去にひきこもり状態だった方は、当時の状況について、関係機関に相談したことはありましたか。)



ひきこもり状況時における関係機関への相談有無は、「ある」が88.0%、「ない」は9.8%であった。

※Q16_1は、Q16で「ある」の回答者のみ回答

Q16_1 どのような関係機関に相談しましたか。相談したことがある機関に○をつけてください。（○はいくつでも）

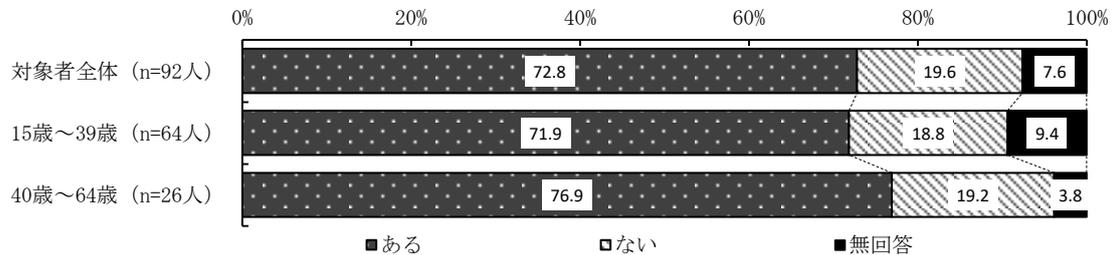


相談したことがある関係機関は、「病院・診療所」が40.7%で最も多く、ついで「札幌市若者支援総合センター(さっぽろ若者サポートステーション)」が38.3%であった。

年齢別では、15歳～39歳は「札幌市若者支援総合センター(さっぽろ若者サポートステーション)」が49.1%で最も多く、40歳～64歳は「病院・診療所」が39.1%で最も多かった。

(5) ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること

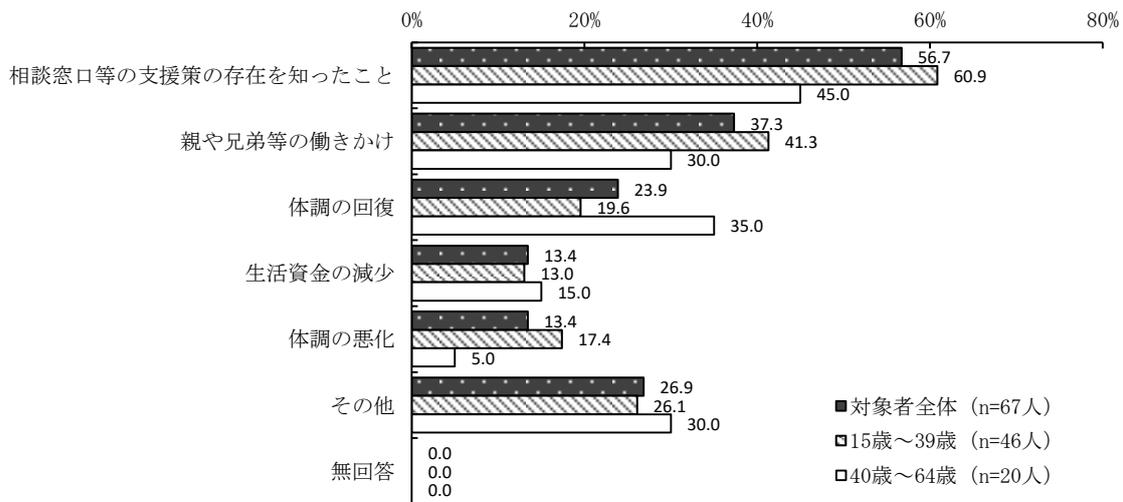
Q17 ひきこもり状態を変えるために何か行っていることはありますか。(過去にひきこもり状態だった方は、その状態を変えるために何か行っていたことはありましたか。)



ひきこもり状態等を変えるために行っていることについては、「ある」が72.8%、「ない」は19.6%であった。

※Q17_1～Q17_2は、Q17で「ある」の回答者のみ回答

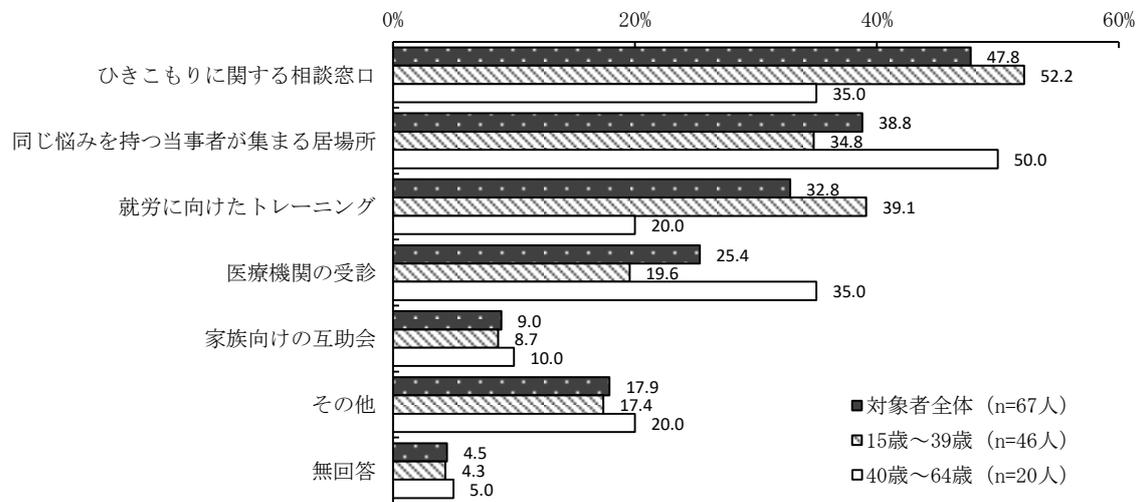
Q17_1 その行動を起こしたきっかけはなんですか。(〇はいくつでも)



ひきこもり状態等を変えるための行動を起こしたきっかけは、「相談窓口等の支援策の存在を知ったこと」が56.7%で最も多く、ついで「親や兄弟等の働きかけ」が37.3%であった。

年齢別では、15歳～39歳、40歳～64歳ともに「相談窓口等の支援策の存在を知ったこと」が最も多かったが、40歳～64歳は15歳～39歳に比べて「体調の回復」が多い傾向がみられた。

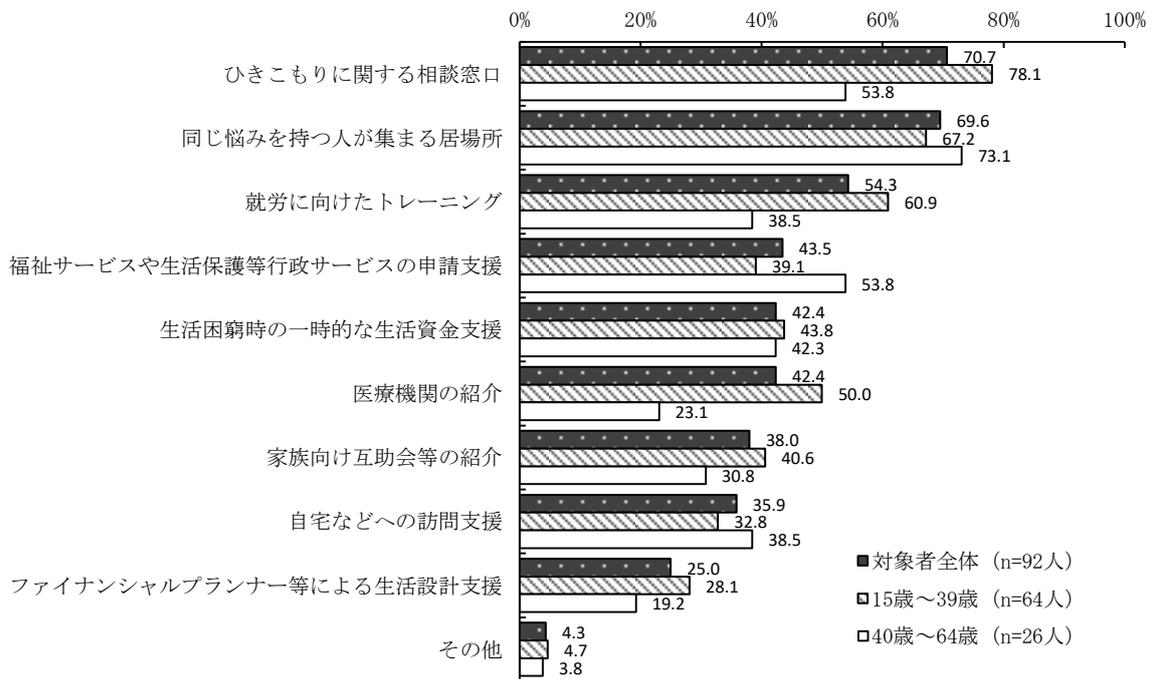
Q17_2 ひきこもり状態を変えるために役立っていることはありますか。（過去にひきこもり状態だった方は、その状態を変えるために役立つことはありましたか。）
（〇はいくつでも）



ひきこもり状態等を変えるために役立っていることは、「ひきこもりに関する相談窓口」が47.8%で最も多く、ついで「同じ悩みを持つ当事者が集まる居場所」が38.8%であった。

年齢別では、15歳～39歳は、「ひきこもりに関する相談窓口」や「就労に向けたトレーニング」に多い傾向がみられ、40歳～59歳は「同じ悩みを持つ当事者が集まる居場所」や「医療機関の受診」に多い傾向がみられた。

Q18 ひきこもりで悩む方々に対して、どのような支援等があると良いと思いますか。
(〇はいくつでも)



ひきこもりで悩む方々に対する支援等については、「ひきこもりに関する相談窓口」が70.7%で最も多く、ついで「同じ悩みを持つ人が集まる居場所」が69.6%であった。

年齢別では、15歳～39歳は、「ひきこもりに関する相談窓口」が78.1%、「就労に向けたトレーニング」が60.9%で多い傾向がみられ、40歳～64歳は「福祉サービスや生活保護等行政サービスの申請支援」が53.8%で多い傾向がみられた。